

## 虹の契約

### 【聖書】創世記9章1～17節

神はノアと彼の息子たちを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちよ。地のすべての獣と空のすべての鳥は、地を這うすべてのものと海のすべての魚と共に、あなたたちの前に恐れおののき、あなたたちの手にゆだねられる。動いている命あるものは、すべてあなたたちの食糧とするがよい。わたしはこれらすべてのものを、青草と同じようにあなたたちに与える。ただし、肉は命である血を含んだまま食べてはならない。

また、あなたたちの命である血が流された場合、わたしは賠償を要求する。いかなる獣からも要求する。人間どうしの血については、人間から人間の命を賠償として要求する。人の血を流す者は／人によって自分の血を流される。人は神にかたどって造られたからだ。あなたたちは産めよ、増えよ／地に群がり、地に増えよ。」

神はノアと彼の息子たちに言われた。

「わたしは、あなたたちと、そして後に続く子孫と、契約を立てる。あなたたちと共にいるすべての生き物、またあなたたちと共にいる鳥や家畜や地のすべての獣など、箱舟から出たすべてのもののみならず、地のすべての獣と契約を立てる。わたしがあなたたちと契約を立てたならば、二度と洪水によって肉なるものがごとく滅ぼされることはなく、洪水が起こって地を滅ぼすことも決してない。」

更に神は言われた。「あなたたちならびにあなたたちと共にいるすべての生き物と、代々としえにわたしが立てる契約のしるしはこれである。すなわち、わたしは雲の中にわたしの虹を置く。これはわたしと大地の間に立てた契約のしるしとなる。わたしが地の上に雲を湧き起こらせ、雲の中に虹が現れると、わたしは、わたしとあなたたちならびにすべての生き物、すべて肉なるものとの間に立てた契約に心を留める。水が洪水となって、肉なるものをすべて滅ぼすことは決してない。雲の中に虹が現れると、わたしはそれを見て、神と地上のすべての生き物、すべて肉なるものとの間に立てた永遠の契約に心を留める。」神はノアに言われた。「これが、わたしと地上のすべて肉なるものとの間に立てた契約のしるしである。」

### 【序】ノアの箱舟建造

神は天地万物を非常に良いものとして創造されました。すべての生き物は青草と木の実を食べ物とし、殺傷のない世界でした。しかしアダムとエバは「これだけは決して食べてはならない。食べると必ず死ぬ」と言われていた善悪の知識の木の実を食べてしまいました。人がそれぞれ自分で善悪を判断するようになれば、善悪が乱れます。エデンの園は失われてしまいました。

その結果発生したのが、人が人を殺すという悲劇でした。アダムとエバの家庭で、長男カインが弟アベルを殺してしまったのです。カインは家を出て、地をさすらう者になりました。スイートホームの崩壊。こうして人が増えていくに従い、悪を善だと思ってしまう行いから争いが生じ、人の悪が地上に満ちていきました。神は地上に人を造ったことを後悔し、心を痛められました。そして遂に、人も生き物もすべてを地上から拭き去る決心をされました。

しかしノアに目をとめた時、神は決心を変えました。「ノアは神に従う無垢な人だった」(6:9)からです。彼が非のうちどころのない完全な人格者だったのではありません。ノアは大洪水を生き延びた後で、農夫になりぶどうの栽培をしましたが、ぶどう酒を飲み過ぎて醜態を演じています(9:21)。ごく普通の人間の一人でした。

でも一つだけ優れた所がありました。神がアダムとエバに心から望まれたこと、すなわち「神の言葉に、どこまでも聞き従おうとする心」を持ち続けていた点です。自分勝手に善悪を判断して行動しようとする心の垢がついていなかったのです。神はノアに大きな箱舟を建造するようお命じになりました。聖書が記すサイズ通りだとしますと、青函連絡船級の大型フェリーに匹敵します。大昔のそのまた大昔ですから巨大な船だったことでしょう。一体どれほど大量の木材が必要だったのでしょうか。恐らく山の森の中で造り始めたのではないのでしょうか。船を山で造り始める——物笑いの種になったに違いありません。

主イエスはこう語っています。「洪水になる前は、ノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていた。そして洪水が襲って来て一人残らずさうまで、何も気がつかなかった」(マタイ 24:38～39)。神の裁き、大洪水が起こるといふノアの恐れを聞いて「本当にそうだ。世の中がこのままでは、神の裁きが起こって当然だ。自分たちも手伝います。一緒に舟に乗せて下さい」と申し出る人が居てもよさそうなのに、結局協力する人は、誰一人として現れなかったのです。

だからノアの家族だけで箱舟を建造したとなりますと、10年以上はかかったことでしょう。なんと根気強い人でしょうか。3人の息子たち夫婦も偉かった。たいていの息子たちなら「親父の道楽には付き合い切れない」と途中で逃げ出していたでしょう。聖書は「ノアはすべて神が命じられたとおりに果たした」と繰り返して述べています。ここにノアの神に従う無垢な人柄が現れています。だからこそ神は、ノアをお選びになったのです。否、神の警告を最後まで信じ抜いたのが、ノアだけだったと言った方が正しいかも知れません。

ですからノアは、新約聖書ヘブライ人の手紙に、アベル、エノク、アブラハムと並んで信仰者の模範として記されています。「信仰によってノアは、まだ見ていない事柄について神のお告げを受けたとき、恐れかしくみながら、自分の家族を救うために箱舟を造り、その信仰によって世界を罪に定め、また信仰に基づく義を受け継ぐ者となりました」(11:7)。

## [2] 神の決意を表す契約の虹

遂に神の裁き、大洪水がもたらされました。神の言葉に従って、ノア一家と選ばれた生き物たちが箱舟に乗り込んだ7日後に、大変な豪雨が40日40夜降り続き、地の一切は沈んでしまいました。150日後から水が引き始め、丸1年と10日後に、ノアたちは箱舟から地上に降り立ち、再び大地での生活を始めます。ノアは先ず祭壇を築き、焼き尽くす献げ物をささげて神を礼拝しました。

神はご自分の心の中で言われました。「人に対して大地を呪うことは二度とすまい。人が心に思うことは、幼いときから悪いのだ。わたしは、この度したように生き物をことごとく打つことは、二度とすまい」(8:21)。二度とすまいという言葉が繰り返されています。神ご自身がこの洪水を起こしたことに、どれほど心を痛み、悔いられたかがしのべられます。私たちが今日このように生かされているのは、神があの大洪水に心を痛み、深く悔いて下さったからなのです。

神は、改めてノアと息子たちを祝福されました。「産めよ、増えよ、地に満ちよ」。しかし神の祝福には、創世記1章の祝福(1:28～30)とは大きな違いがありました。それは人間が他の生き物を食べることをお許しになった点です。人間の欲が深まり、食べ物に対する好み一つをとっても、青草や木の実だけでは、とても満足しないで罪を犯すと、懸念されたからでしょう。つまり神は、人間に対する要求水準を、ぐんと引き下げられたのです。

そして洪水によって肉なるものをことごとく滅ぼし、地を滅ぼすことはもう二度としない契約を立てると、ご自分でご自分に約束されたのでした。そしてこの契約のしるしとして、雲の中に虹を置くことにされました。それは雲を沸き起こし、虹が現れるのをご覧になるたびに、神ご自身が洪水を起こさないと契約を立てたことを、心に留めようとされたのでした。

虹はヘブル語では弓とも訳される言葉です。人や獣を殺す武器の弓を、神は人の手から取り上げて、人の手の届かない大空にかかる弓なりの七色の美しい虹に変えて、神ご自身で結ぶ契約の印とし、「わたしは雲の中にわたしの虹を置く」(9:13)とおっしゃいました。こうして神は「わたしは人間の弓(武器)を取り上げて雲の中の虹とし、もう力尽くでは滅ぼさないとこの契約を、あなたたちと結んだのだよ」という御心を言い表し続けたのです。

このように、たとえ人の悪がどれほどひどくなろうとも、地を滅ぼすことはしないという、赦しの愛の契約のしるしの虹には、「滅ぼさない」と「赦す」という神の憐れみ、愛の約束が込められています。その約束を虹が現れる度に、神は思い出してご自分で確認して下さるのです。だから虹は希望のシンボルとして私たちの心を打つのではないのでしょうか。

### [3] 十字架に現された神の赦しの愛

私たちが現在、東日本大震災が惹き起こした福島原発の原子炉4機のメルトダウンという事故レベル7の危機に直面しています。震災後3日間で1～3号炉の炉心が溶けて炉の底にたまり、炉に穴をあけ、また爆発して放射能を発散させ、汚染水を流し始めました。事故を收拾する活動にもう6年の歳月が過ぎました。廃炉するにも30年かかると言われています。30年余も前のチェルノブイリ原発事故では今日でも、30キロ圏内だけでなく、北東の100キロにわたり高濃度汚染地域100箇所が居住禁止となっています。原発の安全神話は破綻しています。

私はノアが直面した洪水の物語を学びながら、「ノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていた。そして洪水が襲って来て一人残らずさうまで、何も気がつかなかった」という主イエスの言葉が心に突き刺さりました。

何も気がつかなかったのではありません。多くの人はノアが長い年月かけて、山で大きな箱舟を建造していることを見て、知っていました。大洪水という神の裁きに備えているノアの真剣な姿を知っていました。しかし「えっ、ほんと?」「まさか」「そんなこと」と深刻に受取ることを避け、努めて安易

に考え、**楽な生き方**に身をまかせたのです。知っていても自分で**対応しない**のならば、何も知らないのと同じです。

**原発事故**は、野放図に電力を消費する贅沢な生活への**警鐘**です。私たちは生活を改善し、簡素な賢い生き方を選びとる**決断**を迫られています。ノアが箱舟を造って生き延びた**大洪水**は、「神が人を造ったことを後悔し、心を痛められた」と記すほど、**地に増していく人の悪**に対する**深い悔い改め**を求め、**神の迫り**でした。私たちが礼拝の度に祈る**東日本大震災**もまた、私たちに、自分たちの**罪の大きさの自覚**と**悔い改め**を迫る出来事なのではないでしょうか。

神は、二度と洪水を起こさないと決心なさり、**赦しと愛の契約**をご自分で結び、**虹**をそのしるしとされました。そして私たちの罪深さに対する**赦しと憐れみの究極**として、神は大洪水ではなく**十字架の救い**をもたらしてくださったのです。神は、**イエス・キリスト**となってこの世に来てくださり、私たち**全ての者の一切の罪**をご自分の身に引き受けて十字架につき、6時間にわたる断末魔の苦しみを味わい尽くして**贖いの死**を遂げられました。そしてすべての者に**赦しと新しい命**を与えてくださったのです。神ご自身が、**十字架の死の傷み**を引き受け、**イエス・キリスト**を自分の**救い主**と信じる者に、そのまま**神の子**として生きる恵みを お与え下さいました。

シンガポールの日本語教会がクリスマス礼拝に使わせて頂いた**聖アンデレ教会**は、高い天井を見上げると、船底になっています。**ノアの箱舟**を念頭に置いて建築されたのです。そうです。教会はこの世における**ノアの箱舟**です。教会に集まって礼拝している私たちは、**ノアの後**に**続く者**です。ノアは「不法が地に満ちている。見よ、わたしは地もろとも彼らを滅ぼす」(6:13)という神の言葉を聞いた時、**深い恐れ**をもって自分の家族を救うために、**箱舟を造り始め**ました。そうです。**罪の行き着く所**は**死と滅び**です。その事実を自覚しましたから、私たちが救いを求めるようになりました。

そして神が**イエス・キリストの十字架の救い**を備えてくださっていると聞き、聖書を学び、**イエス・キリスト**こそ私たちが罪から救ってくださる**救い主**だと信じて、**バプテスマ**を受けました。神が備えてくださった**教会**という**箱舟**に、**信仰**をもって入ったのです。

### [結] 私たちの箱舟

ノアはブドウ酒を飲みすぎて醜態を演じてしまう**普通の人**でした。私たちが同じです。でも箱舟の中に身を置こうとする**信仰**を持っている点で、**ノアの後**に**続く者**です。多くの人は、悪に対する神の裁きを**深刻**に受けとめません。でも私たちは、自分の心にある悪が私たちが滅ぼすものであることを**自覚**しています。

神は箱舟を造ってその中に入れとお命じになりました。私たちは**川越教会**の中に身を置いています。ノアは何年もかかって箱舟を造り上げました。私たちが教会を大切に、悪の恐ろしさと、このままでは滅びが来ることを、世の人に向かって**あかし**し続けて参りましょう。

そのために教会の**礼拝**を大切にしましょう。毎日の生活の中でも**聖書**を読み、神の言葉に耳を傾け、**祈り**を通して神の**霊・聖霊**の力をいただき、**御心を実践**して参りましょう。

ノアの信仰が家族と周りの動物たちを救いました。「主イエスを信じなさい。そうすればあなたも**あなたの家族も救われます**」(使徒 16:31)ノアはその信仰によって、今日も私たちに語りかけています。私たちの箱舟である川越教会を、しっかり造り上げて参りましょう。

祈ります:神さま、今日も私たちを礼拝にお集め下さり、感謝します。「人が心に思うことは幼いときから悪いのだ」というあなたのお言葉が、胸に突き刺さります。しかしあなたは二度と洪水によって滅ぼさないとお約束下さいました。虹をもって約束のしるしとして、今も示して下さいますことを感謝します。しかし私たちはあなたの深い愛の忍耐をよいことにして、悔い改めず、憎み争い、殺し合う罪を重ねて、御心を痛め続けています。あなたはイエスとなって此の世に下り、悔い改めを迫り、遂には私たちの罪の全てを我が身に引き受けて十字架の死を遂げて下さいました。私たちに罪を贖われた者として生きる救いをもたらして下さいました。感謝します。聖霊をいただいて、神の子として生きる者にして下さっている恵みを感謝いたします。私たちは今日の箱舟、十字架を掲げる教会に集る者になりました。感謝します。どうか愛する家族、友人、共に生きる人々を、この箱舟に迎え、共にあなたを礼拝しつつ、世の終わり、あなたが再び来て下さる日を待つ者にして下さい。どうぞ殺し合う戦争を止めさせてください。救い主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。

アーメン